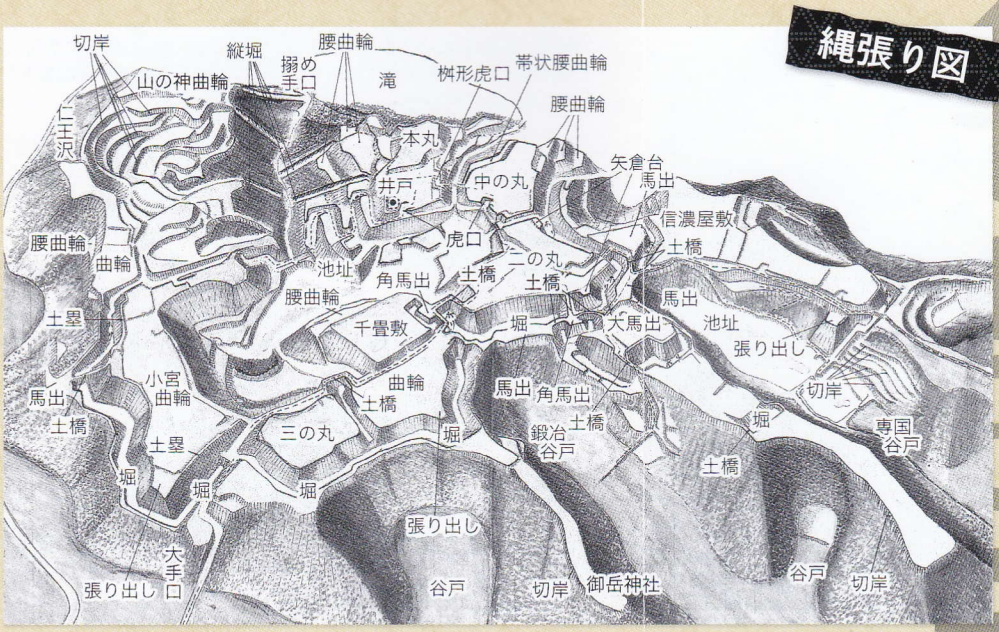
縄張り図



国史跡 戦国山城ファン必見

滝山城跡

城主：北条氏照（北条氏の三代目氏康の三男）

昭和 26 年に国史跡に指定された滝山城跡は、中世城郭の最高傑作といっても過言ではなく、空堀・土塁・馬出等の遺構は極めて良好な状態です。1521 年頃に多摩一帯を治めていた大石氏により築城されたと伝えられていますが、のちに小田原から勢力を拡げていった北条氏の支城となりました。この頃から滝山城は、北関東への進攻拠点及び甲斐の武田氏に備える砦としての役割を担うようになり、城を継承した北条氏照のもとで大拡張が繰り返されました。こうして築き上げられた滝山城は、北を多摩川、南を谷地川に挟まれるように東西およそ 900 メートルに及び、平山城としては東日本最大級の広さを誇るまでとなりました。また、滝山城の最大の特徴ともいえる複雑な地形を巧みに活かして構成された縄張からは、北条氏の築城能力の高さがうかがえます。屈指の堅城との呼び声も高く、1569 年頃には武田信玄が率いる 2 万の軍勢からの猛攻に対し、わずか 2 千の北条勢で守り抜いたといわれています。

現在では、桜の名所として広く知られ、毎年 4 月上旬には中の丸広場などで「滝山城跡桜祭り」が開催され、多くの人でにぎわいます。

現況図